

音 楽 祭

9月17日(日) 12:30開場、13:00開演
 コラニー文化ホール・小ホール

(プレオーディション (ピアノのみ)
 8月6日(日) 南アルプス市カナリアホール
 オーディション
 8月27日(日) コラニー文化ホール・小ホール)

ジュニアコンサート

平成30年2月25日(日) 13:30開場、14:00開演
 甲斐市双葉ふれあい文化館

開催状況

幼児から大人までの幅広い年齢層、ジャンルを超え演奏者が競演する音楽会は例年より多くの聴衆に御来場いただきました。プレオーディション、オーディションを経て、ファイナルの音楽祭は難しい曲も日頃の努力を積み重ねている事がよく伝わる演奏でした。終演後は審査発表、講評があり、表彰式を行いました。審査員からは多くの意見をいただく中で、「全体の演奏水準は長期的に見ると向上しており、日本のみならず世界に羽ばたき活動している人材は育ってきている」と、嬉しい話もいただきました。改めて、音楽祭が果たす役割の重要性を感じました。又、特別演奏にはピアノ小林侑奈さん、メゾソプラノ遠藤美由紀さんのお二人の素晴らしいプロ演奏に盛大な拍手をいただき終演致しました。

参加促進事業は昨年に引き続き「ジュニアコンサート」を開催しました。音楽祭を通して専門委員推薦の11組が出演(幼児~大人まで)。ピアノ、声楽、ヴァイオリン、管楽器とバラエティに富んだ舞台で将来を期待できる出演者への奨励のステージとなり意義ある演奏会を行うことができました。来年度も更なる内容の向上発展に努めて参る所存です。

〔音楽祭〕

- 応募者総数…………… 108名
- ・プレオーディション
- 参加者数 (ピアノのみ) ……81名
- ・オーディション
- 参加者数…51組 (プレ合格者34名を含む)
- ・音楽祭
- 第1部出演者数 ……15組
- 第2部出演者数 …… 2組
- ・入場者数…………… 約400名

〔ジュニアコンサート〕

- ・出演者数……………11組
- ・入場者数…………… 300名



合唱フェスティバル 2017

8月20日(日) 11:00開演

8月21日(月) 11:30開演

東京エレクトロン荳崎文化ホール

開催状況

子どもからお年寄りまで、様々な合唱団が競演する合唱のフェスティバルは、2日間とも大変熱意のあるステージでした。観客の年齢層は幅広く、みなさん盛大な拍手をおくって会場がわきたちました。参加団体数も昨年と同様に約50団体になり、盛大な催しとなりました。

講師は第一線で活躍されている合唱指揮者の河合孝夫先生と野本明裕先生、そしてオーケストラの指揮者として活躍しておられる北原幸男先生をお呼びしてご指導をいただきました。各参加団体の演奏に対して講評用紙に指導助言を書いていただき、それぞれの合唱団の技術向上に大変役立てることができました。発声面や技術面のこと、曲想表現のこと、そして何よりも合唱は聴いている人にメッセージを伝えるべきものであるという合唱の意義を教えていただきました。

閉会式では、河合先生に大変わかりやすい講評をいただきました。イメージに合わせた音を生み出すことの大切さと難しさを説明していただきました。だからこそやりがいがあるのが合唱である。というメッセージは出演者だけではなく観客の方の心にも響いたことと思います。さらに山梨県の合唱のレベルが着々と上がっているとの励ましのお言葉もいただき、各団体ともに今後へ向けての意欲づけになりました。

山梨県の合唱のレベルがだんだんと上がっていているのは、この合唱フェスティバルを通して、他団体と共に切磋琢磨する場があるからだと思います。

県民文化祭は、世代を超えた人々の合唱の楽しい交流と合唱技術の向上の両輪を回していく場だと思います。今後も、山梨県の合唱の輪が広がっていき文化活動が盛んになっていくことに貢献していければ良いと思います。

なお本大会に出場した市川高校音楽部は関東大会において金賞を受賞しました。さらに都留文科大学合唱団は、ここ数年連続で全国大会に勝ち進み、大変優秀な成績を修めています。このような名誉ある賞が山梨県から輩出できたことも、このフェスティバルの大きな成果といえます。山梨県の合唱活動にご協力いただいた皆さまに感謝いたします。

・コンクール部門

中学の部	混声 (2 団体)	96名
	同声 (6 団体)	85名
高校の部	A 部門 (14 団体)	226名
	B 部門 (1 団体)	42名
大学・ユースの部	(1 団体)	67名
室内合唱の部	(3 団体)	67名
・フェスティバル部門	(23 団体)	448名
出演者総計	1,031名	(50 団体)
入場者数	1,225名	



邦楽部門公演会

10月22日(日) 9:30開場、10:00開演
 コラニー文化ホール・小ホール

日本の伝統楽器の「尺八」を演奏してみよう

- ①8月12日(土) 13:30~16:00
生涯学習推進センター・交流室C
- ②8月20日(日) 13:30~16:00
生涯学習推進センター・交流室C
- ③8月27日(日) 13:30~16:00
生涯学習推進センター・交流室C
- ④9月10日(日) 13:30~16:00
生涯学習推進センター・交流室C
- ⑤9月17日(日) 13:30~16:00
生涯学習推進センター・交流室C
- ⑥10月7日(土) 13:30~16:00
生涯学習推進センター・交流室C
- ⑦発表 10月22日(日) 13:30~
コラニー文化ホール・小ホール
曲目:春の小川、夕焼けこやけ

開催状況

平成29年6月の公募に29組の応募をいただきました。参加促進事業では、日本の伝統楽器「尺八」の演奏を行いました。

箏曲、山田流、生田流の古典曲、昭和になって創作された曲、又、尺八本曲、長唄と多種に渡り曲目が演奏されました。

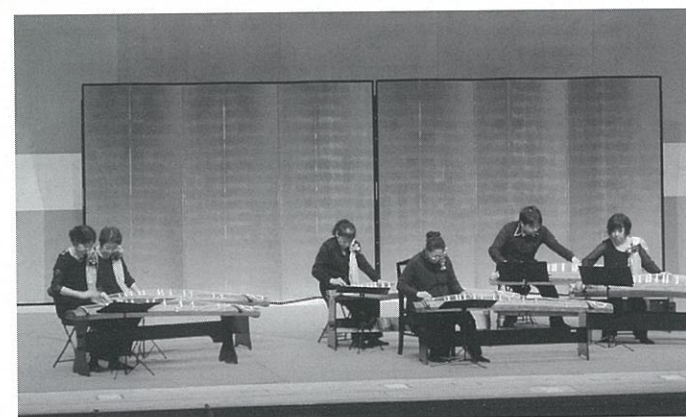
「邦楽」って何だろう。それは江戸時代から続く日本の文化～優美、幽玄、詫びさび、陰翳、色情、諸行無常～仏教的世界観等、現代の日本人には何とも不思議で理解しがたい音楽かもしれない。今では、カワイイ、キレイの文化なのだから。しかし、外国の旅人はその日本的なるものに「あこがれ」を持っているようだ。400余年もつづく日本の音楽は世界に例をみない。さらに、一層の努力によって後世につなげなければならないと思う。

○邦楽部門公演会

出演団体……………29団体
 出演者数……………228名
 入場者数……………500名

○日本の伝統楽器の「尺八」を演奏してみよう

指導者数……………8名
 参加者数……………20名



演劇公演

劇団やまなみ

「原爆で死んだ級友たち」

(原作・関千枝子／脚色・河野通方)

平成30年2月11日(日) 13:30開場、14:00開演

山梨県立文学館・講堂

開催状況

昭和20年8月6日、その日は朝から蒸し暑く広島第二県女二年西組の生徒29人は波多教師に引率され、市役所裏の雑魚場町で建物疎開の勤労働員にかり出されていた。

8時15分、空襲警報解除のサイレンが鳴って作業開始と、その時微かにB29の爆音が聞こえた。「あれ？」と空を見上げると、飛行機から落下傘が落ちてきたのを、何人かの生徒が見た。・・・一瞬、目が眩む閃光と轟音、そして爆風。気が付くと辺りは真っ暗・・・級友たちは全滅した。級友の本地文枝の母静代さんは言います「子に先立たれるのは親にとって耐え難いことなのに、その死にざまが惨い・・・こんな悲惨な死にかたはありません！」と。

劇団では昨今の様子が戦前にどこか似ていると感じる。核兵器の廃止と戦争のない平和を願いこの朗読構成劇を上演しました。



出演者数 (裏方含む) 19名
 入場者数 160名

第1回クラシックバレエ コンテンポラリーダンス 公開講習会

11月11日(土) 10:30~19:30
コラニー文化ホール・小ホール

開催状況

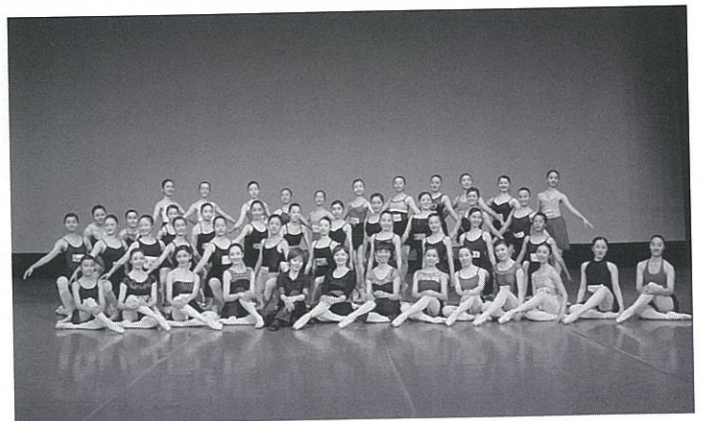
今回の「第17回やまなし県民文化祭」では、洋舞部門初めての試みとして「クラシックバレエ・コンテンポラリーダンス公開講習会」を開催いたしました。クラシックバレエは高部尚子氏、コンテンポラリーダンスは、柳本雅寛氏を講師にお招きし、それぞれ小学校高学年クラスと中学生以上のクラスで行いました。クラスの最後には、そのまま舞台作品となるようなアンシェヌマンを学びました。

講習会の第一の目的は、県内における次代のダンサーの育成です。昨今、日本では習い事離れが進んでいます。その様な中でも山梨の未来を担う子供たちが、一流の指導者に触れ、スタジオの垣根を越え、共通の夢や目的を持ち、これからの練習の糧とし、多くの参加者は次へ繋げることでしょう。

第二の目的として、山梨芸術文化協会の会員を増やすことです。これは私たち洋舞部門においては大きな問題となっており、今までの作品を舞台に出すことでは、なかなか敷居が高く感じ、参加しなかった会員外の生徒の皆さんに参加しやすくしました。しかし、残念ながら今回の公開講習会では、この目的を達成することはできませんでした。

芸術文化、中でもバレエは一朝一夕では踊れるようになりません。永く修練し、様々は経験をすることにより成長していきます。これからの山梨の文化を考え、今私たちは何をすべきなのか考え直す時期に来ていると痛感しています。

参加団体…………… 4団体
参加者数…………… 延べ132名
入場者数…………… 約200名



民謡民舞フェスティバル

10月15日(日) 12:30開場、13:00開演
 コラニー文化ホール・小ホール

参加促進事業

10月15日(日) 13:00~16:30
 コラニー文化ホール・小ホール

開催状況

平成29年10月15日(日)コラニー文化ホール小ホールに於いて、第17回民謡民舞フェスティバルが開催されました。民謡会派12団体、民舞会派7団体と19団体が参加し、出演者総数は300名を数えました。

プログラムは昨年同様4部構成から成り、ふるさと山梨の民謡をはじめ、全国に唄い踊り継がれる民謡を各団体が、合唱や独唱、津軽じょんからや群舞など日頃の練習の成果を発表しました。その中で毎年恒例となっています唄と演奏、踊りとの共演では全国各地の「祝い唄」を7曲披露し、大変賑やかな舞台になりました。第3部では今年も46名の子供達が参加し、武田節による銭太鼓や保育園の年少さんによる「花笠音頭」、中央市玉穂に伝わる「井之口の笠踊り」と、年少さんから高校生までが発表してくれました。元気いっぱいの舞台に客席からは大きな拍手と声援が送られました。3年連続となりました参加促進事業が大勢の子供達の参加により、パワーあふれる舞台になることを期待しています。



○民謡民舞フェスティバル

参加団体……………19団体
 出演者数……………300名
 入場者数……………700名

○参加促進事業

出演団体数……………3団体
 出演者数……………46名

日本舞踊入門

平成30年 2月18日 (日)

13:30~15:30

甲府市中央公民館

開催状況

今回で「日本舞踊入門」は二回目となるので新しい試みとして、親子参加を中心として募集した結果、外国の方の申し込みがあり、やはり二年後のオリンピックの影響で日本の文化を体験しようとする傾向でしょうか。自国の伝統文化の日本舞踊をこういった機会にひとりでも多くの方に知ってもらい広めていこうという私達部門の企画でした。まず着付けから入り、着物を着ての作法を小笠原流礼法で「相手に対しての心が形として」の心構えを学び、その後日舞の稽古では扇の開閉を基本の動作を組み入れた曲を学んでいただきました。歓談では和やかな雰囲気の中で参加者の方より貴重な意見をいただき、次回の参考にしたいと思っております。こうした体験の中から日舞への興味を持っていただき、各々の場所で日舞の種を蒔いてくれますようお願いしております。今年度は部門別フェスティバルは開催出来ませんでした。部門の存続可否かを根本的に見直し、解決策を検討している現状です。

指導者数..... 7名
参加者数..... 20名



朗読フェスティバル

11月26日(日) 12:30開場、13:00開演
山梨県立文学館・講堂

夏の朗読教室

8月6日(日) 10:00~15:30
山梨県立図書館・多目的ホール

開催状況

・朗読フェスティバル

芸術の森公園が紅葉にまつまれる県立文学館の講堂において開催されました。公募による出演者は小学1年生から80代まで幅が広がり、放送コンテストで優勝した高校生も参加しました。

第1部は絵本や教科書の作品を中心に構成。参加促進の成果「雨ニモマケズ」を群読する子供達の一途な姿に大きな拍手が寄せられました。話題の絵本「いのちをいただく」には誰もが納得し感涙。絵本の質の高さを伝える朗読となりました。

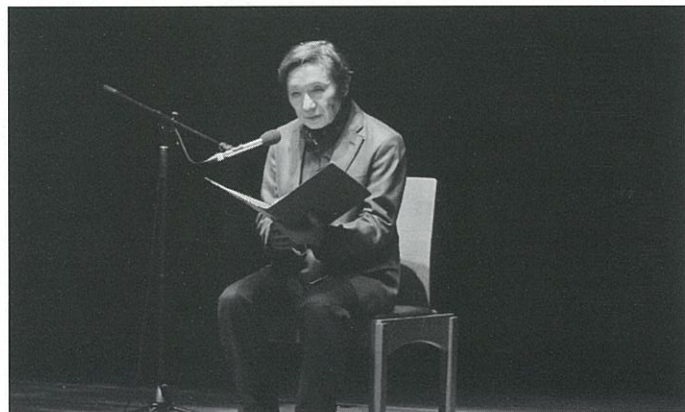
第2部は県内の各地で活動している皆さんが古今の名作を披露するたびに聴衆から大きな拍手が送られました。

語り手が伝える臨場感あふれる情景は音響と照明の効果により静寂のなかにも華やいだ舞台を構成しました。

朗読の裾野は他県に類をみないほど広がりました。今後は表現力の向上と指導者を養成する研修会を実施していきます。

・夏の朗読教室

朗読の基礎を指導。子どもたちの楽しい体験が朗読フェスティバルの本番で発表できるように開催していきます。



○朗読フェスティバル

出演者(組)数……………15組24名

入場者数……………297名

○夏の朗読教室

指導者数……………9名

参加者数……………98名